

金谷治訳注「論語」ワイド版岩波文庫 岩波書店 2001年1月16日刊を読む

「論語」最終章を読む

1. (1) 周には天のたまものあり、善人の豊かなことだ。  
 (2) [武王はいった、]  
 「濃い親戚があっても、仁の人には及ばぬ。  
 民草にあやまちがあれば、責めはわが身の上にある。」
2. (1) めかた、ますめを慎しみ、礼楽制度をよく定め、すたれた官職を整備すれば、  
 四方の政治はうまくゆく。  
 (2) 滅んだ国を復興させ、絶えた家がらをひきつがせ、世すて人を用いれば、  
 天下の民は心を寄せる。  
 (3) 重んずることは、人民と食糧と喪と祭り。
3. (1) 寛であれば人望が得られ、  
 (2) 信があれば人民から頼りにされ、  
 (3) 機敏であれば仕事ができ、  
 (4) 公平であれば悦ばれる。
4. (1) 子張が孔子におたずねしていった、  
 「どのようにすれば政治にたずさわれましょうか。」  
 先生はいわれた、  
 「五つの立派なことを尊んで四つの悪いことを退けたら、政治にたずさわることができよう。」  
 (2) 子張が「五つの立派なこととは何々ですか。」という、  
 先生はいわれた。  
 「(ア)上に立つ者が、恵んでも費用をかけず、(イ)骨を折っても怨みとせず、(ウ)求め  
 ても貪らず、(エ)ゆったりしていても高ぶらず、(オ)威厳があっても烈しくない。  
 [この五つをいうのだ。]」  
 (3) 子張が「恵んでも費用をかけないとはどういうことですか。」という、  
 先生はいわれた、  
 (ア)「人民が利益としていることをそのままにして利益を得させる、  
 これこそ恵んでも費用をかけないことではなかるうか。  
 (イ)自分で骨折るべきことを選んでそれに骨折るのだから、一体だれを怨むことがあ

ろう。

(ウ)仁を求めて仁を得るのだから、一体何を<sup>むさぼ</sup>貪ることがあろう。

(エ)上<sup>かみ</sup>に立つ者が〔相手<sup>あそばせ</sup>が〕大勢<sup>おおぜい</sup>か小勢<sup>こぜい</sup>か小官<sup>こくわん</sup>か大官<sup>おほくわん</sup>かにかかわりなく決して侮らない、

これこそゆったりしていても高ぶらないことではなからうか。

(オ)上<sup>かみ</sup>に立つ者がその服<sup>かみむり</sup>や冠<sup>かんむり</sup>を整え、その目のつけ方<sup>おもおも</sup>を重々しくして、

いかにもおごそかにしていると、人々はうちながめて恐れ入る、

これこそ威厳があっても烈しくないことではなからうか。」

(4)子張<sup>しやう</sup>がいった、

「四つの悪いこととは何々ですか。」先生<sup>せんせい</sup>はいわれた、

「教<sup>おし</sup>えもしないでいて殺<sup>ころ</sup>す(道徳教育<sup>だうとくきういふ</sup>もせず<sup>せ</sup>にいて、罪<sup>つみ</sup>を犯<sup>か</sup>したからと死刑<sup>しつぎ</sup>にすること)の  
を虐<sup>むご</sup>いといい、注意<sup>ちうい</sup>も与<sup>あた</sup>えないで成績<sup>せいせき</sup>をしらべるのを乱暴<sup>らんぼう</sup>といい、命令<sup>めいれい</sup>をゆるくし  
ていて期限<sup>きげん</sup>までに追<sup>お</sup>いこむのを賊害<sup>そくがい</sup>といい、どうせ人<sup>ひと</sup>に与<sup>あた</sup>えるというのに、出し入れ  
のけちけちしているのを役人根<sup>やくじんこん</sup>性<sup>せい</sup>という。

\*〔この四つをいうのだ。〕」

5. 孔子<sup>こうし</sup>がいわれた、

(1)「天命<sup>てんめい</sup>が分からないようでは君子<sup>くんし</sup>とはいえない。

[心<sup>こころ</sup>が落ちつかないで、利害<sup>りがい</sup>に動かされる。]

(2)礼<sup>れい</sup>が分からないようでは安定<sup>あんてい</sup>してやっていけない。

[動作<sup>どうさく</sup>がでたらめになる。]

(3)ことばが分からないようでは人<sup>ひと</sup>を知<sup>し</sup>ることができない。

[うかうかとだまされる。]

P.396 ~ 401

[コメント]

「論語」の最終章。読めば読むほど、実感をもって毎日の生活に迫ってくるのが「論語」。その中でもこの最終章は、行財政改革、教育改革の「基本のキ」の内容が含まれている。

論語を毎日音読すべきこと、すべての人々に求められるかも知れない。

- 2009年6月7日林明夫記 -